

歯科医師認知症対応力向上研修

1. かかりつけ歯科医の役割 編
2. 基本知識 編
3. 歯科診療における実践 編
4. 地域・生活における実践 編

令和3年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業

認知症対応力向上研修の研修教材及び実施方法に関する調査研究事業 編

歯科医師認知症対応力向上研修 研修全体の目的・意義

- 認知症の人や家族を支えるためのかかりつけ歯科医の役割を理解する。
- 認知症の本人の視点を重視したアプローチについて理解し、認知症の人への対応の基本と歯科診療の継続のための方法を習得する。
- 認知症の早期発見・早期対応の重要性、認知症診療の基本、ケアの原則を理解する。
- 認知症の人と家族への支援の現状と制度を理解する。
- 認知症の人や家族を支えるための医療機関、介護事業者、地域が連携した生活支援の重要性を理解する。

かかりつけ歯科医の役割 編

ねらい：認知症の人や家族を支えるために
かかりつけ歯科医ができることを理解する

到達目標：

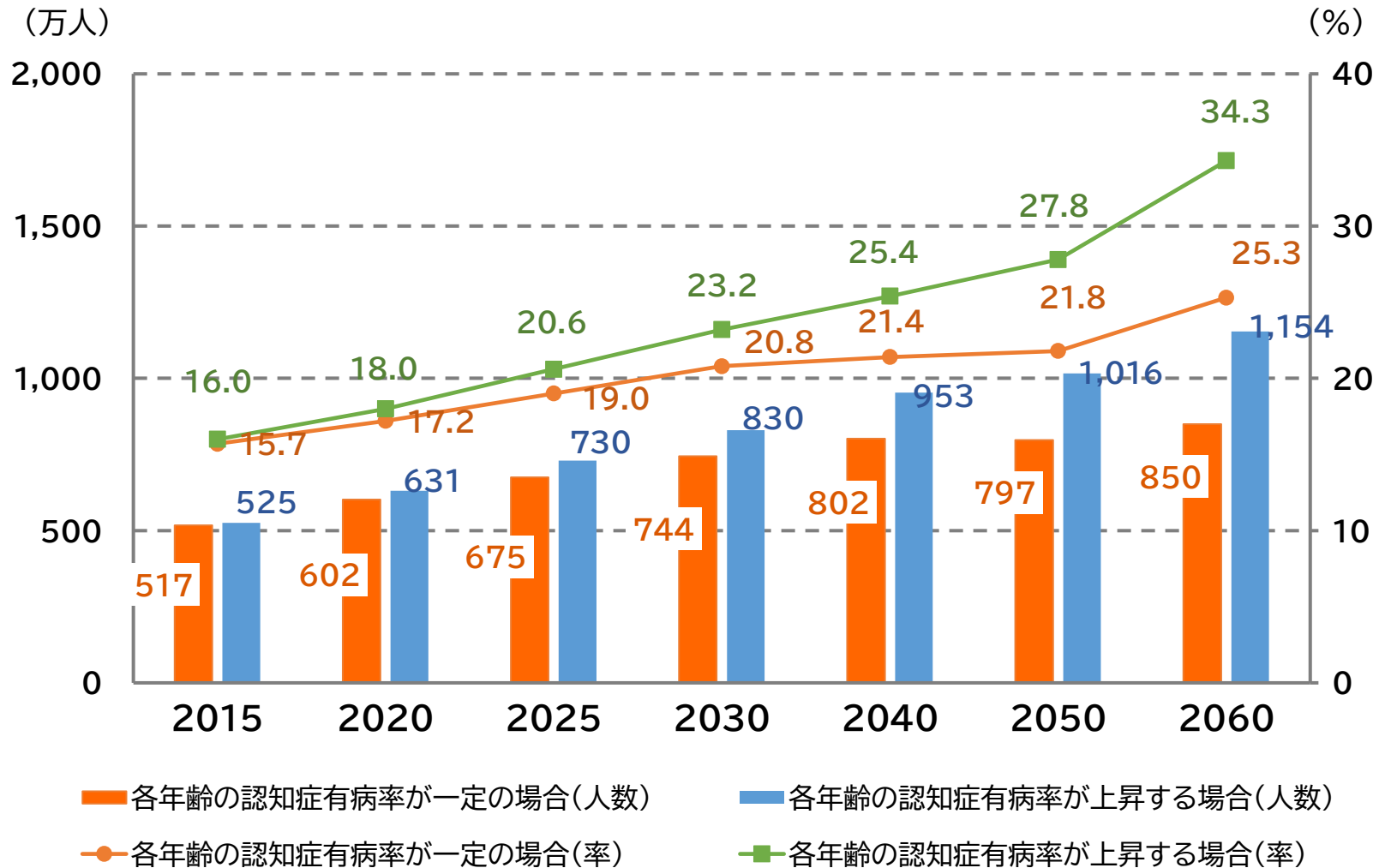
- 認知症施策推進大綱等の施策の目的を踏まえ、
かかりつけ歯科医の役割を理解する
- 認知症の人の本人視点を重視したアプローチ
の重要性を理解する
- 早期発見・早期対応の意義・重要性を理解する

動画 ①

本人の声を聴いてみる

認知症高齢者数の推移

〔役割2〕

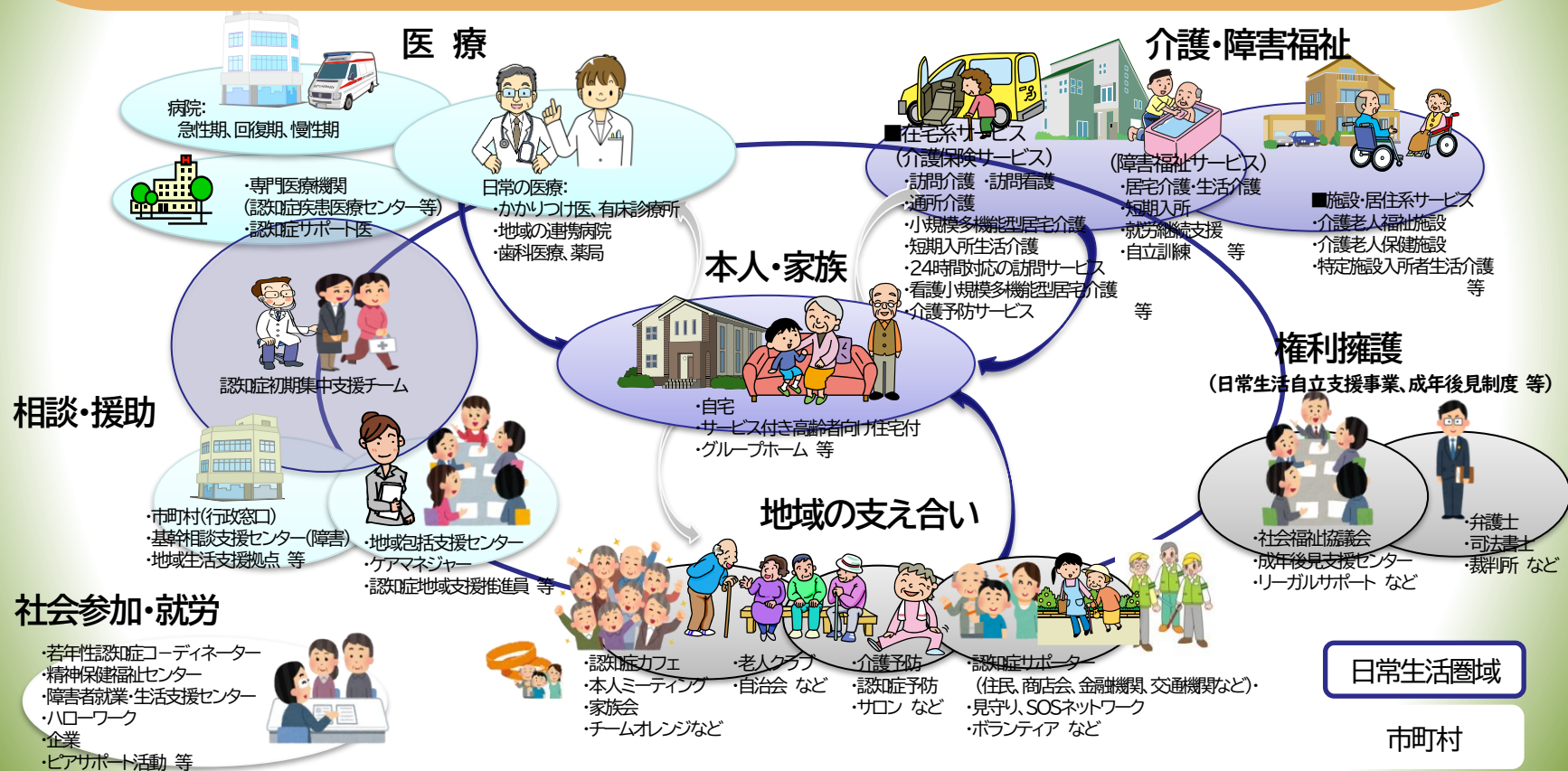


「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」
平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業

認知症施策の推進について

〔役割3〕

- 高齢化の進展に伴い、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症の人は約700万人（65歳以上高齢者の約5人に1人）となる見込み。
- 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。
- 2025年に向け、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。



認知症施策推進大綱の概要

〔役割4〕

基本的考え方

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進

具体的な施策の5つの柱

① 普及啓発・本人発信支援

② 予防

③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

認知症の人や家族の視点の重視

早期発見・早期対応の意義

〔役割5〕

- 認知症を呈する疾患のうち可逆性の疾患は、治療を確実に行うことが可能
- 進行性の認知症であっても、より早期からの適切な薬物療法により進行抑制や症状緩和が可能
- 本人が変化に戸惑う期間を短くでき、その後の暮らしに備えるために、自分で判断したり家族と相談できる
- 家族等が適切な介護方法や支援サービスに関する情報を早期から入手可能となる
- 病気の進行に合わせたケアや諸サービスの利用により、日常生活の質の維持向上や家族の介護負担が軽減できる

動画 ②

「バカにしないで・・・」

かかりつけ歯科医（歯科医療機関）の役割

〔役割7〕

認知症に対応できる歯科医師の役割

- 認知症を理解し徴候などに気づくことができる
- 認知症の人に対する継続的な歯科治療・食支援を行うことができる
- 全てのスタッフが認知症を理解し、認知症の人やその家族を支援することができる
- 必要に応じ他の医療施設や必要なサービスと連携できる

歯科の特殊性

〔役割8〕

そもそも歯科の特殊性とは

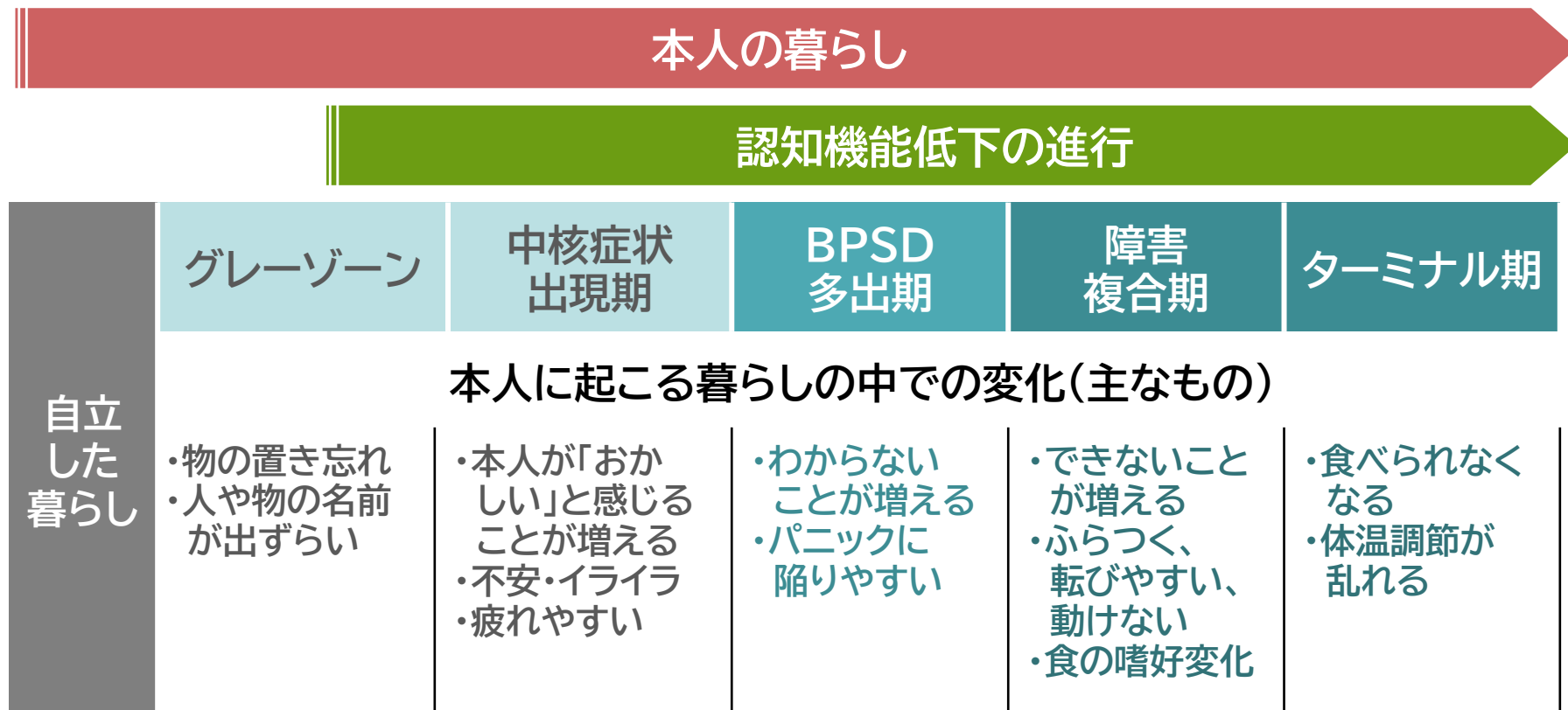
- 本人の希望が前提
- 診断に対して複数の治療方針がある
- 契約は本人と歯科医師の間で行う

加えて、**認知症の人**に対しての歯科診療は

- ① 認知症は目に見えない機能障害
- ② 生活の困難に対応する必要(本人任せにできない)
- ③ 高齢者の口腔の多様性(義歯やインプラントなど)
- ④ 身体の機能低下に口腔の機能低下がリンクする
- ⑤ 栄養摂取への影響
- ⑥ 契約と診療費は本人の希望だけで行えない可能性

認知症の人がたどる経過のなかでの 歯科治療の関わり

〔役割9〕



どの時期、段階(ステージ)での治療なのか、認知症によっておきている本人の暮らしの変化や有する力に配慮・留意した対応が必要となる

認知症の進行過程に応じた歯科におけるケア視点

〔役割10〕

軽度認知障害 から 認知症初期	認知症初期 から 認知症中等度	中等度以上 (在宅や施設)
ガーグリング、リンシングは自立しているが口腔清掃のセルフケアが不十分になる、忘れてしまうこともある。清掃用具の支援に加え、口腔清掃行為の誘導や、日々の習慣化などに配慮する必要がある。介助の受け入れは自尊心に配慮する必要がある。	ガーグリングが困難になる。口腔清掃を一人で遂行することは困難。口腔清掃行為に誘導や介助が必要だが拒否がおこらないように、本人のリズムに合わせる必要がある。義歯しまいこみ、紛失に注意が必要。	口腔清掃したがらず、複雑な義歯の着脱、取り扱いが困難になってくる。うがいの水を飲んでしまう事がある。口腔清掃の介助を嫌がる。理解力低下に伴う口腔清掃介助拒否に配慮し、セルフケアもうながしながら介助を行う。水分の誤嚥に配慮する。

認知症になって歯科へのアクセスが途絶えると・・・

〔役割11〕



かかりつけ歯科医に求められる認知症の人への対応

〔役割12〕

- 認知症の徴候に気づく
- 認知症の人に対応する
- 認知症の人の歯科治療・食支援を行う
- 認知症の人の家族を気遣い支える
- 地域でみることを意識し、連携体制を構築する

認知症の本人の視点を重視したアプローチ

〔役割13〕

- ① その人らしく存在していただけることを支援
- ② “分からない人”とせず、自己決定を尊重
- ③ 治療方針や診療費用等の相談は家族も交える
- ④ 心身に加え社会的な状態など全体的に捉えた治療方針
- ⑤ 家族やケアスタッフの心身状態にも配慮
- ⑥ 生活歴を知り、生活の継続性を保つ治療方針とする
- ⑦ 最期の時までの継続性を視野においた治療計画

認知症の本人
の視点を施策
の中心へ

- 本人にとってのよりよい暮らしガイド
- 認知症とともに生きる希望宣言
- 本人の視点を重視した施策の展開

本人にとってのよりよい暮らしガイド

〔役割14〕

「本人にとってのよりよい暮らしガイド」 ～一足先に認知症になった私たちからあなたへ～

- 診断直後に認知症の本人が手にし、次の一步を踏出すことを後押しするような本人にとって役に立つガイド

<主な内容>

1. 一日も早く、スタートを切ろう

2. これからのよりよい日々のために

○イメージを変えよう！

○町に出て、味方や仲間と出会おう

○何が起きて、何が必要か、自分から話してみよう

○自分にとって「大切なこと」をつたえよう

○のびのびと、ゆる～く暮らそう

○できないことは割り切ろう、できることを大事に

○やりたいことにチャレンジ！ 楽しい日々を

3. あなたの応援団がまちの中にいる

4. わたしの暮らし(こんな風に暮らしています)



認知症とともに生きる希望宣言

〔役割 15〕

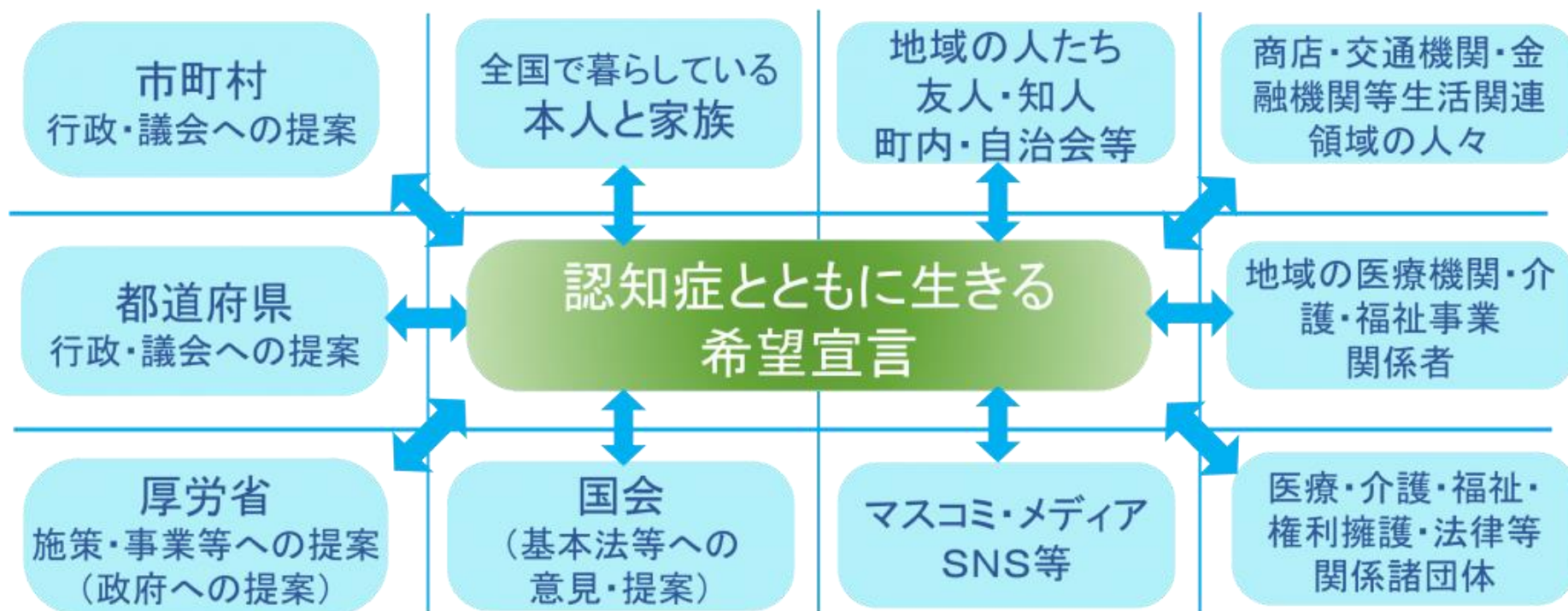
一足先に認知症になった私たちからすべての人たちへ

- 1 自分自身がとらわれている常識の殻を破り、前を向いて生きていきます。
- 2 自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。
- 3 私たち本人同士が、出会い、つながり、生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。
- 4 自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。
- 5 認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすいわがまちを一緒につくっていきます。

「希望をもって共に生きる」ための地域づくり

〔役割 16〕

認知症の人が、希望をもって共に生きるための地域づくりには、立場や職種を超えた関わりが必要であり、かかりつけ歯科医もその一員である。



本人の視点を重視した施策の展開

〔役割 17〕

「本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド」

○ 都道府県や市町村の行政担当者・関係者が、
認知症施策や地域支援体制づくりをより効率的
に展開していくことを支援するためのガイド

このガイドのねらいと活かし方

- 大都市でも、小さな町村でも、認知症の人が増え続けていく時代です。
- 「認知症の人たちややさしい町に」
新オレンジプラン（認知施策推進戦略）がめざす方向に向かって、あなたの自治体でも様々な事業や取組を試行錯誤を進めていると思います。
- このガイドは、都道府県や市町村の行政担当者・関係者へ、認知施策や地域支援体制づくりを
・ようスムーズに（もっとと）まじく
・より効果的に（毎のことごとくを、無駄・無意味なく）
展開していくことを応援するために作られたものです。
- その重要なポイントは、「認知症とともに暮らしている『本人の声』」。
※新オレンジプランの中でも
「本人の意思の尊重」、「本人の視点の重視」がキーワード。
- このガイドでは、それらを各自自治体で具体的に進めていくためのあり方や案をわかりやすくお伝えします。

★本ガイドの関連資料として、「本人にとってのよりよい暮らしガイド（通称：本人ガイド）」があります。
その活かし方やポイントについても、本ガイドで紹介しています。

本ガイド（都道府県・市町村用）

東京都福祉政策推進部
認知症施策推進課より発行
します。

本ガイドのポイントを活かし方についても紹介しています。

本人ガイド（本人用）

本人ガイド

（東京都福祉政策推進部より発行）

認知症の本人たちと一緒に作った人向けのガイドです。家族や身近な人も、医療・介護関係者等と共に知識や経験を活かして書き進めていただくにも活用してください。

セットでご活用下さい。

- ・認知施策のこれからのめざす計画、実施、検証の参考に
- ・認知症の本人、家族のよりよい暮らし、支援のための、具体的な道具として
- ・医療・介護・福祉関係者の意識、サービス、連携、協働の道具として
- ・地域の多様な関係者が、連携、協働をしていくための道具として

1

認知症になってからの日々を より良く暮らせるわが町に

◆今、認知症地域支援体制づくりの「方針」の転換が求められています。

◆施設や事業、資源の配り方より増やしても、方針が思いままでは、本人や家族、地域の人たちが、共に安心して暮らしている地域にはなりません。（自治体としての取組がより重要です。）

◆暮らしの手、時間、コストの中で大数の成果を出していくためには、「新しい方針」への転換が不可欠です。

◆「新しい方針」の前提になっているのは、「本人の声」です。

「旧い方針」から「新しい方針」へ切りかえよう！

あなたの自治体の方針？ あなた自身の方針？

旧い方針：提供側の視点重視

- ①本人の意思・生き方・生活を軽視
- ②本人抜きに決める・進める
- ③本人の力を軽視・無視/問題点重視
- ④本人は受入れられる一方
- ⑤本人が地域に出ない/出さない環境（孤立）
- ⑥状態が悪くなってから問題対応
- ⑦一部の人が、バラバラに支援

・本人が存在不安、状態悪化、力の低下
・家族、地域、社会の負担・負担が増幅
・要介護の悪循環

本人の声をもとに

➡

本人の声をもとに

新しい方針：本人の視点重視

- ①本人の意思・生き方・生活を重視
- ②何事とも本人と決める・一緒に進む
- ③本人の力を重視/可能性重視
- ④本人が支え手として活躍
- ⑤本人が地域に出る/出られる環境（共生）
- ⑥初期～早期からより深く生きる
- ⑦多様な人がつながり一緒に歩む（家族、住民、専門員が一緒に）

・本人が存在不安、安心、状態安定、力の発揮
・家族、地域、社会の負担軽減・負担が最小化
・要介護の負の連鎖

本人の声をもとに

➡

本人の声をもとに

転換

早く、方針転換しないと
みんなが害に罹りかね。

あたりまえのことだから、
自分たちから、こうあって
ほしい。

◆方針の転換は、国の内外で1990年代から徐々に始まってきた。旧く新しい風潮です。

国内では、新オレンジプラン（2015年1月）以降、「**本人の視点重視**」が施策の重要な柱として位置づけられています。この方針は、自治体としての施策や事業を進める上での根幹です。

ガ
リ

本人の声の中に、必要な支援や その手がかりが豊富にある！

- ◆何が起き、何が必要か、本人のことは認知症にな
- ◆本人の声を聴いて、親しい支援や暮らし、地域の良
- いところ（必要なこと）を、優先課題の整理
- 「本人の声を聴く」ことを、行政担当者・関係者
- ※技術職員はもちろん、事務職の担当者も
- 直接から地域にアンテナをはって、本人の声を知
- ※地域の様々な人たちと一緒に、
- 本人の声を聴いておしまい、集めておしまいにし
- ※まずはその本人のために、そして地域のため

本人の声を聴く

本人の声を情報化する

本人の声を活かす 機会をつくる

見方を要 事

- 今ある！
- 認知
- 介護保
- 地
- 本人た
- 「本
- 本人に
- 職員

本人の声 継続的に

- 多様な
- 継続的
- 本人の
- 変動に
- 異し
- せざる

平成20年度老人保健推進費等補助金（老人保健
認知症の診断前後等における認知症の人の視点等）

地方自治
東京府健康長寿

「本人の声」をテーマにした話し合いの機会を作ろう

- 応答部署、庁内関係部署間、地域の認知症関連関係者等、多様な
立場、メンバーによる話し合いの機会をつくる
- 担当部署内からはじめて、関連部署や関係者に情報発信、「話
し合い」への参加を促していく
- 話し合いの機会に、本人が参加を
- ※一人からでも本人が参加できるよう
トライしよう

本人の参加が、
本人視点、本人参加が
進む一歩になる

5

都道府県・市町村向け

本人の声を起点とした 認知症地域支援体制づくり ガイド

平成29年度老人保健推進費補助金（老人保健増進増進等事業分）
認知症の診断前後等における認知症の人の視点を重視した支援体制構築推進のための研究事業



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

認知症の予防の考え方

〔役割 18〕

一次予防（認知症の発症遅延や発症リスク低減）

- 運動不足の改善と糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、口腔環境・機能の維持
- 社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持
- 介護予防の事業や健康増進事業と連携

二次予防（早期発見・早期対応）

- かかりつけ医、保健師、管理栄養士等による健康相談
- 認知症初期集中支援チームへの参画
- かかりつけ医や地域包括支援センター等と連携

三次予防（認知症の進行の予防と進行遅延）

- 重症化予防、機能維持、行動・心理症状の予防・対応
- 認知症バリアフリー、不安の除去と安心・安全な生活の確保

かかりつけ
歯科医

```
graph TD; A[かかりつけ 歯科医] --> B[一次予防]; A --> C[二次予防]; A --> D[三次予防];
```